

アスパラガスの生産振興

～新たな担い手の確保と安定生産～

活動年次：令和3～4年

対象：北広島市アスパラガス生産推進協議会8戸 石狩農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景

- ・北広島市は昭和52年から、祖先の地「広島県」で今もお原爆症に苦しむ方々に、少しでも元気になってほしいと、毎年グリーンアスパラガス「お見舞いアスパラ」を送っている。
- ・平成19年に組織化された「北広島グリーンアスパラグループ」は、高齢化や担い手不足により新規作付や更新が進まず、ほ場の経年化に伴う収量、品質(細いS,M規格が多い)の低下もあり、「栽培意欲」の低下が見られる。このため、北広島産にこだわった「お見舞いアスパラ」の継続と産地維持が難しい現状となっている。

課題

◇新たな担い手確保の体制づくり

◇安定生産技術の導入



具体的な対策

- ・新規参入者の確保と支援
- ・栽培面積の拡大
- ・安定生産技術の普及(5つの重点技術)
①品種 ②大苗 ③かん水 ④倒伏防止 ⑤病害虫

2 活動の経過

その1 アスパラガスの産地強化について関係機関、地域リーダーと協議

R3年は「新たな生産体制の検討」「安定生産技術の普及」に取り組むことを確認した。

【新たな生産体制の検討】

- ・説明会の開催
- ・生産組織の設立

【安定生産技術の普及】

- ・安定生産技術実証ほの設置

その2 アスパラガス産地計画について農業者に説明会を開催

関係機関、地域リーダーと導入に前向きな農業者に声をかけ、「新たな生産組織設立による所得確保」と「栽培技術など作付け希望者の現状把握」を提案した。



説明会出席者で個々の現状を報告

- ◎永年作物のアスパラガスは、ほ場が雑草地化しやすい
- ◎経年化に伴い、年々収量が減少しているが、計画的な株(品種)更新はしていない
- ◎体験農園では、旅行会社などから収穫体験プログラムの要望がある

その3 安定生産技術の普及

5つの重点安定生産技術を提案し、関係機関、種苗会社と連携して実証ほを設置した。現地研修会、栽培講習会の開催、個別巡回(既存の生産者)を行った。

【5つの重点技術】

- ①品種選定 ②大苗定植
- ③かん水管理 ④倒伏防止
- ⑤病害虫防除対策

【道央公社・種苗会社と連携】

- ①展示ほ設置
- ②現地研修会(7月、10月)
- ③栽培講習会(6月、10月)

【個別巡回】

- ①栽培状況と課題の把握
- ②病害虫適期防除支援



現地研修会で展示ほ視察
～安定生産技術の確認～



個別巡回で病害虫の適期防除支援
～経年ほ場では、茎枯れ病の発生が多い～

3 活動の成果 *****

その1 「北広島市アスパラガス生産推進協議会設立」設立

令和3年4月、地域リーダーが会長に就任し、会員8名、ブランド名「平和のグリーンアスパラガス」(仮称)とし、10年後15戸・総生産量30tを目指すことを全員で確認した。

(農業者の声)

- ・説明会の内容を話したら、息子が栽培に意欲を示した。
- ・雑草防除など、みんなで情報交換ができる場ができて心強い。



総会開催 (2022.2.22)

	R3(現状)	R4	R13
戸数(戸)	8	8	15
露地面積(a)	30	60	150

その2 新規就農者の育成、新規参入者の確保

道央公社と連携して実証ほを設置し現地研修会を開催したことで、公社研修生から「就農したらアスパラガスを経営の柱にしたい」、「北広島市へ就農したい」との声が聞かれた。

また、JA道央管内の新規就農者4戸が新たに導入を希望するなど意欲の向上が図られた。



道央振興公社のアスパラガス展示ほ
～定期的に生育状況を確認する研修生～



秋の越冬前調査
～研修生に調査方法を指導～

その3 安定生産技術の普及

実証ほの設置による安定生産技術の見える化で、重点技術導入の必要性について理解が深まり、次年度は、全員が「品種選定」、「病害虫の適期防除対策」に取り組むことになった。

～R4 導入予定技術～

- 【重点技術】**
- ①品種選定
 - ②大苗定植
 - ③かん水管理
 - ④倒伏防止
 - ⑤病害虫防除対策

技術	A	B	C	D	E	F	C	D
	新規	新規	新規	新規	既存	既存	既存	既存
品種選定	○	○	○	○	○	—	—	—
大苗捕植	—	—	—	—	△	△	△	△
かん水	△	△	△	△	△	△	△	△
倒伏防止	△	△	△	△	△	△	△	△
防除対策	○	○	○	○	○	○	○	○

○: 予定 △: 検討

4 今後の活動 *****

目標収量、品質の確保に向け、関係機関と連携して栽培技術の支援を行う。